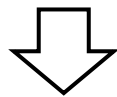


■ 国の法案の動向

- 2016年12月15日 I R 推進法（特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律）の成立
- 2017年 3月～ I R 推進本部設置 ・ I R 推進会議開催
- 2017年 7月31日 I R 推進会議 取りまとめ
- 2017年 8月 上記取りまとめに係るパブリックコメントの実施、
全国 9 ブロックにおいて説明・公聴会の開催



必要な法制上の措置（I R 実施法）

IR推進法第 5 条

必要となる法制上の措置については、この法律の施行後
一年以内を目途として講じなければならない

- ギャンブル等依存症対策に関する基本法案については、先の特別国会（平成 29年11月 1 日～12月 9 日）において各党議員から法律案が国会に提出され、継続審議となっている。

■ I R 推進に向けて

- ・ これまで、大阪府・大阪市では、I Rの早期開業が実現できるよう、国に対して法整備や基本方針の提示などの手続きを早急に進めていただくよう働きかけてきたところ
- ・ 激化する国際競争を勝ち抜き、「観光先進国」日本を実現するためには、早期のI R開業が必要

<背景>

- ・ MICE施設に関し、近隣諸国では大型施設の新設や既存施設の拡張が進んでおり、I R開業が遅れることは、我が国のMICE誘致の国際競争力低下が懸念される

○海外における主なMICE施設の新設・拡張状況

国名	施設名	開業年	展示面積	備考
韓国	蚕室展示コンベンションセンター	2025年	100,000㎡	新設
	現代自動車グローバルビジネスセンター	2021年	50,000㎡	新設
	水原展示コンベンションセンター	2019年	4,600㎡	新設
台湾	大台南市コンベンションセンター	2020年	約10,000㎡	新設
中国	深圳国際展示場	2018年	500,000㎡	新設
	天津国際展示場		400,000㎡	2016年 I期 20万㎡ 開業

大阪府・大阪市の議会における主な質疑

質疑概要	答弁概要
<p>【魅力あふれるIRの実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> IRの効果を大阪だけにとどめるのではなく、<u>周辺の観光資源や観光施設とも連携し、広く関西、西日本まで効果を波及させる視点も重要である。</u> さらに、<u>ウェルネスやスポーツなどの観点も取り入れた新たな観光を創出するなど、健康的なイメージのIRを実現していくべきとも考える。</u> 大阪のIRに対する考え方を伺いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大阪IR基本構想（案）・中間骨子」では、<u>ウェルネスの観点やスポーツ・フードなどをテーマにしたニューツーリズムの創出をめざすとともに、大阪・関西・西日本の連携による観光客の送り出しにより、その効果を広く全国へ波及させることとしている。</u> 今後、大阪ならではの魅力あふれる、世界最高水準のIRをめざし、さらなる検討を深めていく。
<p>【IRのプラスの効果と府民・市民理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> IRはカジノだけでなく、<u>国際会議場や展示場、エンターテインメント施設などの施設が一体的に整備・運営されるものであり、大きな経済効果が期待でき、観光を基幹産業として育てていくために必要なものであり、大阪のさらなる成長には不可欠である。</u> こうした、<u>IRの正しい情報がいまだ十分に浸透していない。</u> 大阪でのIR実現をめざすためには<u>積極的な情報発信が必要であるが、どのように取り組んでいくのか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> IRの誘致にあたっては、<u>府民・市民のコンセンサスを得ることが極めて重要であることから、タイムリーに、国の方針を含め、府市の検討状況に応じた正しい内容を、わかりやすく説明する必要があると認識している。</u> そのため、<u>IRがもたらすプラスの効果に加え、不安を払拭するための懸念事項の最小化に向けた対応など、府市のめざすIRについて、積極的に情報発信に取り組んでいるところである。</u> 今後も、<u>多様な機会を捉え、IR誘致の機運醸成を図っていく。</u>
<p>【ギャンブル等依存症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> カジノのない現在においても、<u>ギャンブル等依存症に苦しんでいる方がおられ、カジノ施設の設置により、さらに依存症者が増加するのではないかと懸念している。</u> IR実現をめざすのであれば、<u>まずはギャンブル等依存症対策にしっかりと取り組むべきではないか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ギャンブル等依存症対策については、<u>依存症対策基本法案等の動向を踏まえつつ、カジノ施設を設置することで、ギャンブル等依存症の増加を招かないようにすることはもとより、他のギャンブル・遊技等に起因する依存症を含め、府市関係部局等とも連携を図りながら、有効な対策を講じることでギャンブル等依存症を抑制していく。</u>
<p>【IRのマイナスの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> IRの利用者は、<u>圧倒的に日本人観光客や大阪周辺の一般市民がターゲットである。</u> 大阪経済にとってプラスになるどころか、<u>周辺地域の消費が減り、マイナスの効果となるため、夢洲へのIR誘致は、やめるべきではないか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 夢洲にIRを核とする国際観光拠点、MICE拠点が形成されることにより、<u>来訪者や国際会議の開催等の大幅な増加が見込まれるなど、IRは国内外から新たに人、モノ、投資を呼び込むものである。</u> IRの立地により、<u>非常に大きな経済波及効果等が見込まれ、また、財政にも寄与するもので、大阪にとって大きなプラスの効果がある。</u> 民間活力を活用しプラスの効果を最大限引き出すとともに、<u>懸念事項に対しては正面から取り組み、国際競争力の高い世界最高水準のIRの実現に努めていく。</u>